

2021年（令和三年） 9月10日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

8/26~9/1のNYMEX・WTI先物市場は、67.42~69.21ドルの範囲で推移した。

9月2日は、前日の米国原油在庫の大幅な減少やOPECプラスの予定通りの慎重な減産緩和などを好感して続伸し、約1か月ぶりの高値を付けた。米国エネルギー省は、ハリケーン「アイダ」による供給障害に鑑み、エクソンモービルに対し戦略石油備蓄(SPR)から150万バレルの原油を貸与した。10月限の終値は前日比1.40ドル高の69.99ドル。

週末3日は、8月の米国雇用統計が予想を下回る伸びで、米国の景気先行きに懸念が出たこと、また、翌日からの3連休前でポジション調整の売りが出やすかったことから、3日ぶりで反落した。ただ、ハリケーン「アイダ」による被害の復旧には時間を要しており、供給不安が残っていることから、下値は固かった。なお、米国内の稼働中の石油掘削装置は前週末比16基減の394基。10月限の終値は前日比0.70ドル安の69.29ドル。

6日は、レーバーデーの休日につき、休場。

連休明け7日は、サウジ・アラムコが10月積原油価格の調整金を引き下げたとの先週末の報道で、先行き石油需給が緩むとの懸念から、続落した。為替市場のドル高による原油先物の割高感も、値下がり要因となった。ただ、依然、ハリケーン「アイダ」の被害からの復旧は遅れており、供給不安は残っている。10月限の終値は前日比0.94ドル安の68.35ドル。

8日は、ハリケーンの影響が、メキシコ湾の原油生産施設には残っており、復旧には時間を要することから、需給の引き

締まりを意識して、3営業日ぶりに反発した。10月限の終値は前日比0.95ドル高の69.30ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(10月渡し)は、8月26~9月1日の間、70.30~71.70ドルの範囲で推移した。9月2日69.60ドル、3日71.30ドル、6日69.70ドル、7日70.50ドル、8日69.90ドルで推移した。

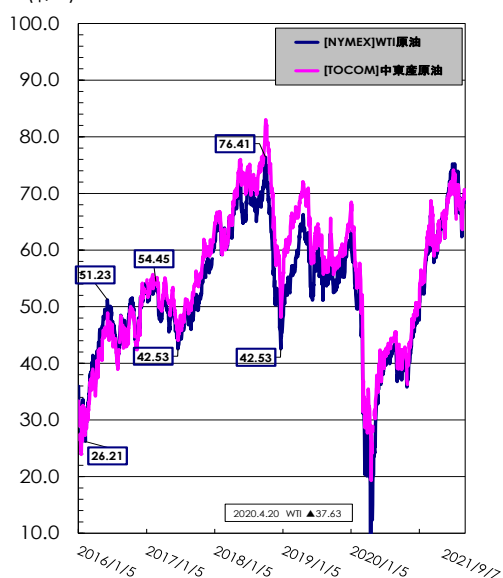
為替は8月26日~9月1日の間109.74~110.19円の範囲で推移した。9月2日110.00円、3日109.94円、6日109.83円、7日109.78円、8日110.27円で推移した。

財務省が9月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、8月中旬の原油輸入平均CIF価格は、51,599円/klで、前旬比1,202円高、ドル建て74.79ドルで前旬比1.83ドル高、為替レートは1ドル/109.68円。

そのような中で、9月6日時点の小売価格は、ガソリンが前週(8月30日)比0.3円の値上がり、軽油も同0.3円の値上がり、灯油は同4円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは3週ぶりの値上がり、軽油も3週ぶりの値上がり、灯油も3週ぶりの値上がりだった。この週(9月第1週)の原油コストはわずかに値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比0.5円の引き上げとなった模様。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/29 ~ 9/4	3,000 ▲7	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	78.0 ▲0.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	9/4	10,358 ▲152	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	9/6	69.03 ▼-0.23	▲ 27.5
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/7	68.35 ▼-0.86	▲ 31.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月中旬	74.79 ▲1.83	▲ 31.34
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	51,599 ▲1,202	▲ 22,597
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.68 ▲0.15	▼ -3.57
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/6	110.83 ▼-0.09	▼ -3.47

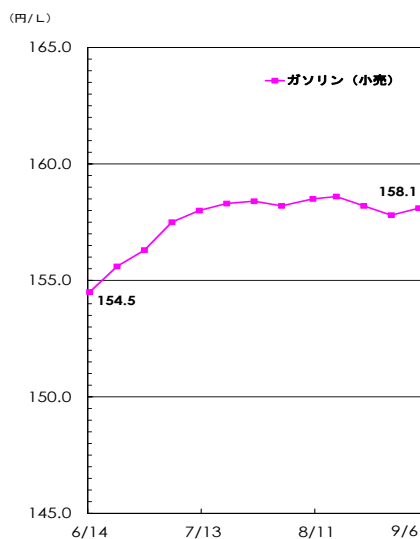
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/29 ~ 9/4	811 ▼ -32	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	737 ▼ -44	▼ -	
	輸出	"	32 ▲ 32	▲ -	
	在庫	9/4	1,620 ▲ 42	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/31 ~ 9/6	66.3 ▲ 1.6	▲ 20.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/31 ~ 9/6	64.0 ▲ 0.1	▲ 22.7
		(TOCOM/中部)	9/6	64.4 ▼ -0.3	▲ 22.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/6	158.1 ▲ 0.3	▲ 22.6	

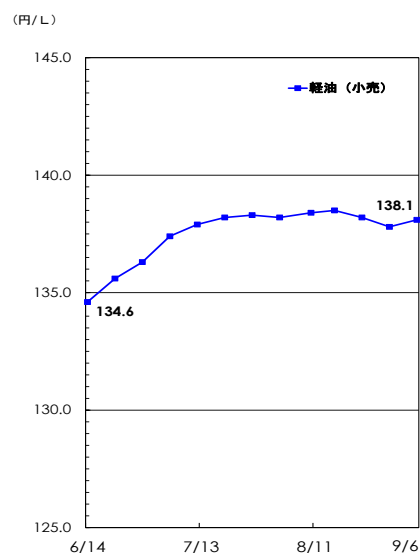
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

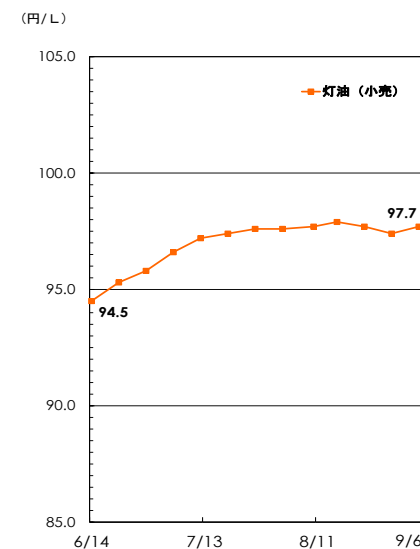
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/29 ~ 9/4	796 ▲ 46	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	753 ▲ 213	▲ -	
	輸出	"	248 ▲ 22	▲ -	
	在庫	9/4	1,583 ▼ -205	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/31 ~ 9/6	67.4 ▲ 2.0	▲ 19.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/31 ~ 9/6	66.1 ▲ 0.6	▲ 17.8
		(TOCOM/中部)	9/6	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/6	138.1 ▲ 0.3	▲ 22.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/29 ~ 9/4	175 ▼ -43	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	143 ▼ -7	▲ -	
	輸出	"	48 ▲ 48	▲ -	
	在庫	9/4	2,138 ▼ -16	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/31 ~ 9/6	67.1 ▲ 2.2	▲ 19.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/31 ~ 9/6	62.2 ▲ 1.0	▲ 19.4
		(TOCOM/中部)	9/6	65.9 ▲ 3.4	▲ 22.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/6	97.7 ▲ 0.3	▲ 16.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

9月8日のNYMEXのWTI先物原油は3営業日ぶりに反発した。8月末に米南部に上陸したハリケーン「アイダ」の被害からの復旧に時間を要しており、8日時点でも、米メキシコ湾の原油生産の約8割(約45万b/d相当)が、生産停止中とのこと(これまでの累計生産量の減少は約1750万バレル)。メキシコ湾洋上には米国の原油生産の約2割、メキシコ湾岸には米国製油所の約半分が立地しており、供給不安が続いている。なお、米国エネルギー情報局(EIA)の米国石油在庫統計は、レーバーデーの休日につき、1日遅れの9日の発表予定となっている。10月限の終値は前日比0.95ドル高の69.30ド

ル、11月限の終値は0.92ドル高の69.05ドル。

EIAによると、9月6日時点のガソリンの小売価格は、前週比3.7セント値上がりの1ガロン3.176ドル(92.9円/ℓ)、ディーゼルは同3.4セント値上がりの3.373ドル(98.6円/ℓ)となった。ガソリンは3週ぶりの値上がり、ディーゼルは2週連続の値上がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年8月29日～9月4日に休止したトッパー能力は18.7万バレル/日で、前週に対して5.2万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は300.0万klと、前週に比べ0.7万kl増加。前年に対しては53.5万klの増加。トッパー稼働率は78.0%と前週に対して0.2ポイントの増加、前年に対しては15.0ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて軽油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.8%減、ジェット/0.9%減、灯油/19.6%減、軽油/6.1%増、A重油/16.8%減、C重油/0.5%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.5万kl減)。軽油の輸出は24.8万kl(前週比2.2万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェット、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、ジェットが減少し、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は73.7万kl(対前週5.7%減)と2週振りに減少した。ジェット4.8万kl(対前週25.6%増)、灯油14.3万kl(対前週5.0%減)、軽油75.3万kl(対前週36.4%減)、A重油17.7万kl(対前週5.7%減)、C重油18.5万kl(対前週22.9%増)。

(単位:千KL)

	今週 (8/29 ~ 9/4)	前週 (8/22 ~ 8/28)	前週比
ガソリン	737	781	▼ -44 (-6%)
ジェット燃料	48	38	▲ 10 (26%)
灯油	143	150	▼ -7 (-5%)
軽油	753	540	▲ 213 (39%)
A重油	177	188	▼ -11 (-6%)
C重油	185	151	▲ 34 (23%)
合計	2,043	1,848	▲ 195 (11%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月4日時点の在庫は、ガソリン、A重油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはA重油、C重油が増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは162.0万kl、前週差4.2万kl増。前年に対しては11.2万kl少ない。

灯油は213.8万kl、前週差1.6万kl減。前年に対しては46.6万kl少ない。

軽油は158.3万kl、前週差20.5万kl減。前年に対しては5.6万kl少ない。

A重油は74.5万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては3.4万kl多い。

C重油は191.9万kl、前週差0.8万kl増。前年に対しては1.4万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (9/4)	前週 (8/28)	前週比
ガソリン	1,620	1,578	▲ 42 (3%)
ジェット燃料	753	842	▼ -89 (-11%)
灯油	2,138	2,154	▼ -16 (-1%)
軽油	1,583	1,788	▼ -205 (-11%)
A重油	745	736	▲ 9 (1%)
C重油	1,919	1,911	▲ 8 (0%)
合計	8,758	9,009	▼ -251 (-2.8%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月31日～9月6日の指標原油価格は前週(8月24日～30日)比でわずかに値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、円建ての原油コストはわずかにしたと見られる。

次週(9/9～9/15)の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比0.5円の値上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

8月31日～9月6日の製品スポット市況は、8月24日～30日平均と比べ、全油種の全取引で値上がりした。

直近週(8/31～9/6)の陸上スポット価格平均値は、前週(8/24～8/30)比で、ガソリンは1.6円の値上がり、灯油は2.2円の値上がり、軽油は2.0円の値上がりだった。同期間(8/31～9/6)において、ガソリンは118～120円台で大きく値上がり、灯油は65～67円台で大きく値上がり後わずかに値下がり、軽油は65～68円台で大きく値上がり後わずかに値下がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(8/31～9/6)に、前週(8/24～8/30)比で、ガソリンは1.3円の値上がり、灯油は1.5円の値上がり、軽油は2.0円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(8/31～9/6)に、ガソリンは119～121円台で値上がり、灯油は63～65円台で大きく値上がり後値下がり、軽油は66～69円台で大きく値上がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.1円の値上がり、灯油は1.0円の値上がり、軽油は0.6円の値上がりだった。先物価格は、同期間(8/31～9/6)に、ガソリン117～118円台で大きく値下がり、灯油62円台で横ばい、軽油65～66円台で出入り後値下がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (8/31～9/6)		前週 (8/24～8/30)		前週比
	今週	前週	今週	前週	
レギュラー	66.3	64.7	64.7	64.7	▲ 1.6
灯油	67.1	64.9	64.9	64.9	▲ 2.2
軽油	67.4	65.4	65.4	65.4	▲ 2.0

(TOCOM) (単位: 円/%)

先物価格	今週 (8/31～9/6)		前週 (8/24～8/30)		前週比
	今週	前週	今週	前週	
レギュラー	64.0	63.9	63.9	63.9	▲ 0.1
灯油	62.2	61.2	61.2	61.2	▲ 1.0
軽油	66.1	65.5	65.5	65.5	▲ 0.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/31～9/6実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.6	▲ 0.1	▲ 0.9
灯油	▲ 2.2	▲ 1.0	▲ 1.6
軽油	▲ 2.0	▲ 0.6	▲ 1.3
A重油	▲ 1.7		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月6日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(8月30日)比0.3円高の158.1円、軽油も同0.3円高の138.1円、灯油は18%ペースで同4円高の97.7円(1%ペースでは同0.3円高の97.7円)。ガソリンは3週ぶりの値上がり、軽油も3週ぶりの値上がり、灯油も3週ぶりの値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは29道県、横ばいは8県、値下がり10都府県だった。全国最安値は151.6円の埼玉県(同0.9円高)、その次は、152.3円の宮城県(同0.4円高)、他方、最高値は168.5円の長崎県(同0.6円安)だった。最も値上がりしたのは同1.9円高の愛知県(155.4

円)で、横ばいは大分県など8県、最も値下がりしたのは同1.5円安の鹿児島県(166.0円)だった。

今週(8月31日～9月6日)は、指標原油価格はわずかに値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、円建ての原油コストはわずかに値上がりしたと見られる。次週(9月9日～15日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比0.5円の値上げとなった模様。次回調査時(9月13日)のガソリンの小売価格は小幅な値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向] (単位: 円/%)

	今週 (9/6)	前週 (8/30)	前週比	直近高値
レギュラー	158.1	157.8	▲ 0.3	08/8/4 185.1
灯油	97.7	97.4	▲ 0.3	08/8/11 132.1
軽油	138.1	137.8	▲ 0.3	08/8/4 167.4

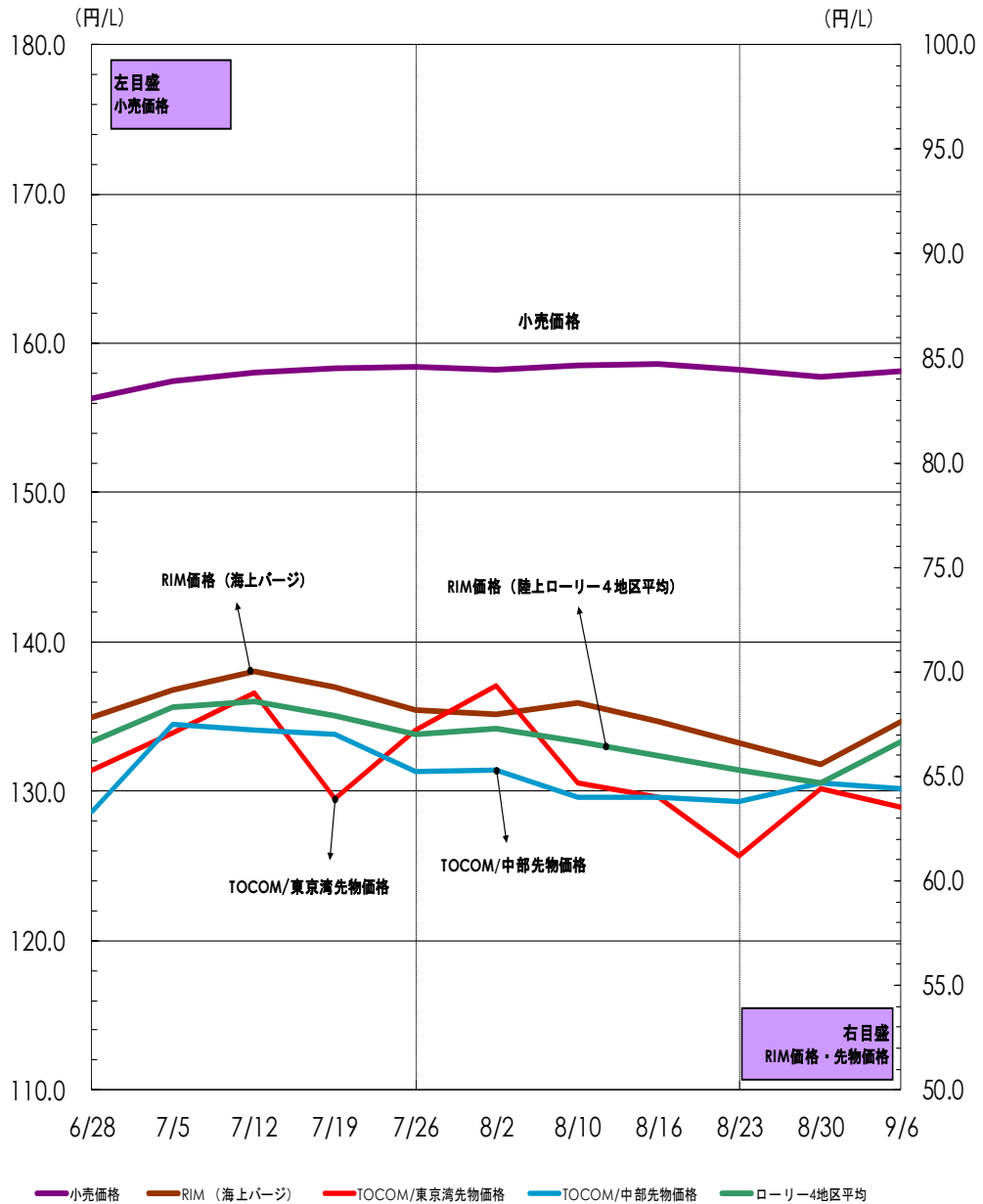
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/6/28 ~ 2021/9/6)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2021第23号) の公表は、9/17 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和3年3月末現在) は、8月25日 (水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。